

今後のリスクコミュニケーションの進め方 (検討課題)

(1) テーマの選定

① テーマの選定手法

- ・ 各リスク評価検討会の参集者からテーマの募集
- ・ テーマを設定する場合には、当該テーマにおける意見交換の狙いも明確化

② 今後、取り上げるべきテーマ

- ・ 事業者の事例紹介、特に事業者の自主的なリスクアセスメントの取り組み
- ・ 作業環境測定の意義（個人ばく測定と作業環境測定関係の明確化）
- ・ リスク評価に基づく措置の導入の意義（法律で押しつけられているとの意識の転換）

(2) 開催のタイミング

① 開催タイミング

- ・ リスク評価の節目において開催
 - － 初期評価書及び詳細リスク評価書の公表段階
 - － 健康障害防止措置のパブリックコメント段階
 - － 有害物ばく露作業報告対象物質のパブリックコメント段階
- ・ リスク評価、措置導入全般にかかる理解の促進を目的とするようなテーマについては、随時開催。

② その他

(3) 開催方針

① 効率的かつ効果的な持ち方

- ・ 複数開催が可能と考えられる東京開催を除いて、基本的に専門家と一般との区分けを行わない。
- ・ 法令上のリスクアセスメントに加えて、各社における実質的なリスクアセスメントの事例も紹介していく。この場合に労働者側も講演者として参加してもらう。
- ・ 事業者・業界におけるリスクコミュニケーションの普及促進の観点から、開催目的、国と事業者等との連携強化を明確化する。

② 開催地

- ・ 地方の事業者の参加が容易なよう、東京以外での開催を検討。事業者のア

クセスを考慮し、主要地方都市で開催を考慮。

- ・ 地方開催あたっては、テーマの一般化、間口の広いテーマを設定

(4) その他